

令和3年度 学校評価シート

学校名： 和歌山県立和歌山東高等学校

学校長名： 市川 貴英 印

めざす学校像	生徒が確実に成長する学校
育てたい生徒像	社会でより良く生きる力を持った生徒

本年度の重点目標 (学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する)	1 主体的に学ぶ意欲を向上させ、基礎的教養を形成する
	2 ルール・規則を守る(自律する)力を育てる
	3 自他を理解して協調する力を育てる

中期的な目標	・本校が過去から培ってきた特別支援教育をさらに改善・充実し、多様な生徒たちに対応できる学校力をつけることで、様々な支援の取り組みができる高等学校としての役割を果たす ・地域に根ざした学校として、ボランティア活動等において地域と密接に関わり、生徒のさらなる成長を目指す
--------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学校評価の結果と改善方策の公表の方法	ホームページへの掲載
--------------------	------------

達成度	A	十分に達成した(80%以上)
	B	概ね達成した。(60%以上)
	C	あまり十分でない。(40%以上)
	D	不十分である。(40%未満)

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。
4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自 己 評 価					令 和 3 年 度 評 価 (3 月 2 4 日 現 在)		
重 点 目 標					評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 方 策
番 号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 取 組	評 価 指 標			
1	学力や生育の両面で課題を抱えたまま入学してくる生徒が多く、目的意識を持たずに学校生活を送る現状が見られる。こうした生徒の実態を踏まえた効果的な指導を充実させることが課題である。	生徒の存在を絶対的・肯定的に認め、生徒の実態把握に努めているか。 生徒の基礎的教養の形成に向けた積み上げ学習等の推進に努めたか。	・生徒一人ひとりを丁寧に指導することで中途退学、原級留置の減少に繋げる。 ・教員各自がアセスメント力向上を常に意識するとともに生徒の実態の把握に努め、校内支援体制(面談、教育相談、SC・SSW)の活用と積極的な保護者連携を図る。 ・学力の基礎力診断の実施と活用を図る。	・中途退学、原級留置者の前年度比2割減。 ・生徒個々の実態把握のための家庭との連携(家庭訪問等)ができているか。 ・校内支援体制の充実及び情報共有ができているか。 ・学力診断結果を受けて学習(学び直し等)指導の充実を図れたか。	中途退学・原級留置者については、評価指標を達成した。定員割れによる生徒減からの少人数クラス実現と従来から行っている中学校からの聞き取りによる生徒情報を全職員で共有でき、生徒一人ひとりに寄り添った指導ができた。今後も引き続き、生徒情報にはアンテナを高くし、多方面の連携から指導をしていく必要がある。	B	生徒の諸問題(問題行動や特別支援等)を全教職員で情報共有し、チームとして解決を見いだすには、まだまだ力不足である。SC・SSW等多方面との強固な連携とともにチーム力の向上を図る。学習に関しては、ICTを十分活用しながら生徒の理解しやすい授業の研究を進め、生徒の学習意欲向上を図る。
2	規範意識が希薄で社会的なマナーに欠ける言動も見受けられるため、社会的な無知を減らし、望ましい生活態度やマナーについて指導する。	自己内に規範やルールを知識として持つことが出来ているか。また、その実践できる力を育てられたか。	・生徒の規範意識の向上を図り、生徒個々の情報共有を密にし、問題行動を未然に防ぐ取り組みを進める。 ・薬物乱用防止や喫煙防止への啓発活動の充実を図る。 ・アセンブリーや個々の指導を通し規範意識の向上の機会の充実を図る。	・特別指導、懲戒処分の前年度比2割減。 ・たばこゼロ通信等の定期的な配布ができたか。 ・学年別アセンブリーを年6回以上実施。	特別指導、懲戒処分の数は、評価指標を達成した。その約8割は校内での問題行動であり、学校の規則を守れなかった生徒が大半を占めた。一方、学年別アセンブリーについては、コロナ禍での実施が難しい場面もあり、達成できなかった。	B	規範意識や社会的なマナーを生徒個々の知識として持たせるため、教職員全体で取り組む姿勢を確立し、教職員間の連携を深め、指導の効果を上げていく。
3	生育や発達を起因とする、自他の理解にさまざまな問題や課題を抱える生徒が多く、他者理解をすすめる協調性を育む必要がある。	他者を理解する意欲とスキルに加え、自分を理解してもらおうとする意欲とスキルを育てられたか。	・中学校訪問、生徒面談及び家庭との積極的な関わりにより、生徒個々の発達等の課題について理解や把握に努める。 ・生徒自身が自己の将来を考えられる力の育成及び生徒の活動の場の充実に努める。	・個々の生徒の情報共有のための学年会議を月1回実施。 ・キャリア教育推進のためのLHRを学期に2回以上実施。 ・部活動やボランティア活動の機会の充実を図れたか。	個々の生徒の情報共有を中心とした学年会議は、ほぼ評価指標を達成した。このことによりさらに多方面からの協力を得ることができ、その指導体制を確立させることができた。一方、キャリア教育を中心とした生徒の将来を見据えた指導については、さらなる充実が必要である。	B	チームで動く体制づくりを進め、生徒個々の問題を情報共有するため、学年会議を中心とした活動をさらに活発化するとともに、分掌との連携など縦横の連携を強固にしていく。 キャリア教育の計画的で実践的に行えるよう更なる推進を進める。

学 校 関 係 者 評 価	
令 和 4 年 2 月 2 8 日 実 施	
学 校 関 係 者 か ら の 意 見 ・ 要 望 ・ 評 価 等	
<p>生徒による授業評価の結果を受けて授業内容や授業進度等に関しては、8割以上の肯定的な回答があり、増加傾向にある。</p> <p>また、学校設定科目「教養基礎」は、生徒の基本的な生活習慣の確立に非常に有意義であり、9割以上の生徒は、遅刻もなく登校し、学校生活を送れている。</p> <p>一方、家庭で学習をしない生徒の割合も増加しており、家庭学習をどう授業理解に結びつけ、多様な場面で「学ぶ」を実践していけるような仕掛けが必要である。</p> <p>生徒による学校評価の結果を受けて学校生活全般に関して肯定的な意見が多く、多くの生徒が学校生活をより良く有意義に過ごしていこうとする姿勢が見られる。</p> <p>外部の方々、特に地元地域からは、本校の取り組みや特色に対して十分理解していただけており、地域の学校として期待されている。今後は、更なる特色や特性を進化させながらも新しい取り組みも十分考えながら発展させていく必要がある。</p>	